富山市科学博物館
TOYAMA SCIENCE MUSEUM

富山県内のカキノキに残る2017年秋のツノワグマの痕跡

著者	南部 久男, 白石 俊明
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	44
ページ	51-52
発行年	2020-07-01
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=1988

富山市科学博物館研究報告第44号，pp. 51－52；(2020)
Bulletin of the Toyama Science Museum, (44): 51－52；(2020)

短　報

富山県内のカキノキに残る 2017年秋のツノワグマの痕跡

南部　久男[1)]，白石　俊明[2)]

[1)] 富山市科学博物館登録ボランティア　939-8084 富山市西中野町一丁目8-31
[2)] 富山県立山カルデラ砂防博物館　930-1405 中新川郡立山町芦峅寺字ブナ坂68

Traces Marked by Japanese Black Bear on Persimmon Trees in Toyama Prefecture, Central Japan, in Autumn 2017

Hisao Nambu[1)] and Toshiaki Shiraisi[2)]

[1)] Toyama Science Museum volunteer, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan
[2)] Tateyama Caldera Sabo Museum, 68 Bunazaka, Ashikuraji, Tateyama-machi, Toyama 930-1405, Japan

１．はじめに

富山県の低山の河川流域や山麓部の人里周辺でのツキノワグマの出没状況を知るための基礎資料として，筆者らは2010年から2016年の秋季にカキノキにつけられたクマの痕跡（爪痕）を調査し，報告してきた（後藤・南部，2012，2013，2015；南部ら，2016，2017；南部・白石，2018）．本稿では2017年秋のカキノキにつけられた痕跡（爪痕）の調査結果を報告する．

２．調査地及び方法

調査地域は，後藤・南部（2012）の定点調査地域である県内の河川流域等の20地域である（図1，表1）．原則として2010年秋に調査したカキノキについて爪痕を確認したが，調査本数には増減がある．現地調査はクマの冬眠後で，2017年秋のクマの爪痕が確認できる2018年１～７月に行った．

３．結果及び考察

2017年秋に20地域でカキノキにクマの爪痕があった割合を表１に記す．20地域のうち11地域でクマの爪痕は確認できず，９地域（渋江川，小矢部川流域福光地域，同城端地域，庄川流域庄川，同五箇山地域，神通川流域山田川，同室牧川，角川，舟川山麓部）でクマの爪痕を確認した．その割合は調査本数が10本以上の地域で，福光地域，庄川及び舟川山麓部で５％以下，渋江川，五箇山地域，山田川で10％以下，角川で15％以下であった．城端地域では66.7％（N = 21）と高い値を示した．

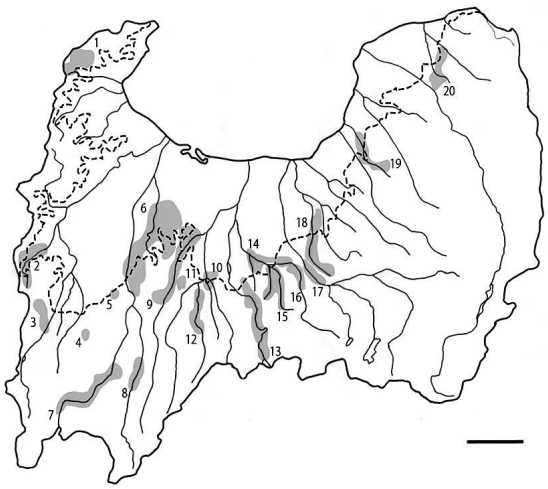


図1　富山県内の調査地域（網掛け部分）. 番号は表１に対応する．図の点線は標高100mライン．バーは10km.

富山県自然保護課（2017）によれば，2017年の堅果類（ドングリ）の豊凶は，ブナ（15箇所）は全県で不作，ミズナラ（16箇所）は県東部で並作，県西部で不作，全県で不作，コナラ（10箇所）は県東部で並作，県西部で不作，全県で並作であった．秋のクマの主食と考えられるブナ，ミズナラ，コナラの着果状況は，「クマが大量出没した年（2006年と2010年）と比較すると，県東部では良く，県西部では同等以上」と述べられている．2017年のクマの出没は全県で217件あり，１～８月は141件，９～12月は76件であり，秋の出没が少なかった（富山県自然保護課，2020a）．2017年秋の富山県のクマの出没は，堅果類の豊凶と対応していると考えられる．

2017年秋は，多くの調査地点で，カキノキに残るクマの爪痕の割合は低く，前述のように堅果類の豊凶やクマの出没状況と対応していると考えられる．しかしながら，一部の地域（城端地域）で，カキノキに残るクマの爪痕の割合が67％と高かった．この調査場所では，2011年秋～2016年秋（2012年は未調査）のカキノキに残るクマの爪痕は全ての年で０であり（後藤・南部，2013，2015；南部ら，2016，2017；南部・白石，2018），大量出没年の2010年の秋は87％（N = 31）と高い割合を示した（後藤・南部，2012）．

この調査地点は高清水山（標高1,145 m）の山塊の山麓に位置し，ここから南東約2.5 km 離れた同じ山塊の縄ケ池周辺では，５月４日，５月11日，５月21日にクマの成獣や仔グマが相次いで目撃されている（富山県自然保護課，2020b）．秋の９月16日，10月31日，12月７日にはこ

表1　2017年秋のカキノキに残るツキノワグマの爪痕の割合.

調査地	調査本数	爪痕の有無 2017秋	割合
1 余川川	24	0	0%
2 渋江川	16	1	6.3%
小矢部川流域　（計）	92	17	18.5%
3 福光地域	71	3	4.2%
4 城端地域	21	14	66.7%
庄川流域　（計）	232	3	1.3%
5 井波地域	14	0	0%
6 庄川	175	1	0.6%
7 五箇山地域	24	2	8.3%
8 利賀川	19	0	0%
神通川流域　（計）	224	6	2.7%
9 山田川	52	5	9.6%
10 井田川	45	0	0%
11 室牧川	4	1	25.0%
12 野積川	34	0	0%
13 神通川本流上流域	89	0	0%
熊野川流域　（計）	164	0	0%
14 熊野川	75	0	0%
15 黒川流域	47	0	0%
16 熊野川上流域	42	0	0%
17 常願寺川	15	0	0%
18 栃津川	27	0	0%
19 角川	46	6	13.0%
20 舟川山麓部	32	1	3.1%
計	872	34	3.9%

の調査地点の西側の山麓で成獣や仔グマが目撃され，9月20日，9月23日，24日には山田川沿いの河岸段丘崖で仔熊や成獣，痕跡が発見されている（富山県自然保護課，2020b）．今回の調査地点やこれらの出没地点は，小矢部川支流の山田川流域に含まれる．これらの地域においては，春は山地で，秋は山麓や平地で活動していた個体がいたことが分かる．

富山県では秋のクマの大量出没年には，カキノキに残るクマの爪痕の割合は高いことが知られている（南部・白石，2012；後藤・南部，2018）．今回の地点と最も近い堅果類の豊凶調査地点の細尾峠では，ブナ，ミズナラとも凶作（周辺ではコナラの調査地点はない）で（富山県，2017），秋にクマがエサを求め山麓を利用し，調査地点のカキを食べた可能性があるが,堅果類の豊凶とは関係なくカキの実を採食していた可能性もあり,今後も継続的な調査が必要である．

4．引用文献

後藤優介・南部久男，2012．富山県におけるツキノワグマによる2010年秋のカキノキ利用状況について．富山の生物，(51)：93-100.

後藤優介・南部久男，2013．富山県におけるツキノワグマによる2011年秋のカキノキ利用状況．富山市科学博物館研究報告，(37)：115-117.

後藤優介・南部久男，2015．富山県におけるツキノワグマによる2012～2013年秋のカキノキ利用状況．富山市科学博物館研究報告，(39)：95-96.

後藤優介・南部久男，2018．富山県の小河川流域の生物－富山県生物学会の総合調査（2006～2014）の報告(概要)－，pp．124-127 + 134-135．富山県内の8河川流域のツキノワグマの採食痕跡と4河川流域の哺乳類．富山県生物学会．https://toyamaseibutu.mizubasyou.com/shokaseng.html．(2020年2月29日閲覧)．

南部久男・白石俊明，2012．富山県におけるツキノワグマによる2006年秋のカキノキの痕跡．富山市科学博物館研究報告，(36)：9-12.

南部久男・白石俊明・後藤優介，2016．富山県におけるツキノワグマによる2014年秋のカキノキ利用状況．富山市科学博物館研究報告，(40)：97-98.

南部久男・白石俊明・後藤優介，2017．富山県内のカキノキに残る2015年秋のツキノワグマの痕跡．富山市科学博物館研究報告，(41)：71-73.

南部久男・白石俊明，2018．富山県内のカキノキに残る2016年秋のツキノワグマの痕跡．富山市科学博物館研究報告，(42)：69-70.

富山県自然保護課，2017．平成29年堅果類『ドングリ』の豊凶調査結果について．最終更新日：平成29年9月7日．http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00018101.html（2017年9月10日閲覧）．

富山県自然保護課，2020a．平成29年ツキノワグマの目撃痕跡情報　県全体(月別)．最終更新日：2018年2月7日．www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00017470.html．(2020年2月29日閲覧)．

富山県自然保護課，2020b．平成29年ツキノワグマの目撃痕跡情報　出没情報地図【クマっぷ】www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00017470-003-01.html（2020年2月29日閲覧）．